

平成26年9月9日
 保健福祉局健康部
 健康企画課
 電話 245-5202
 内線 2773

千葉市政担当記者 様

デング熱患者の市内感染（疑い）事例の発生について

市内において、海外渡航歴及び代々木公園を含む東京都内への訪問歴がなく、市内での感染疑いと思われるデング熱患者の発生がありましたので、市民等に対し感染予防及び注意喚起の観点から、お知らせします。

なお、本事例については、本日、厚生労働省においても同時にプレスリリースを行います。

1 概要

平成26年9月6日（土）、市内医療機関からデング熱が疑われる患者について情報提供があり、検査を行った結果、デング熱患者であることが確認され、医療機関からの届出がありました。

患者は、最近一か月以内の海外渡航歴及び代々木公園周辺を含む東京都内への訪問歴はなく、推定感染地域は、患者の居住地の周辺の可能性があります。今のところ、患者が入所する施設の入所者において、当該患者のほかに、デング熱様の症状を示した人は確認されていません。

2 患者について

- (1) 年齢等 : 稲毛区在住、男性、60歳代
- (2) 海外渡航歴 : 最近一か月以内はなし
- (3) 発症・受診 : 8月31日（日）発症、9月2日（火）市内医療機関受診し入院となる
- (4) 症状 : 発熱、頭痛、筋肉痛、骨関節痛、血小板減少、白血球減少、悪心、食欲不振
肝機能障害。現在入院しているが、患者の容態は安定している
- (5) 検査・診断 : 9月8日（月）市環境保健研究所で検査したところ、デング熱であると確定した
- (6) 蚊の刺咬歴 : 不明

3 市の対応について

- (1) 厚生労働省と協力して下記を実施する
 - ①施設入所者の健康調査の実施
 - ②蚊の発生状況調査
 - ③蚊の駆除作業
- (2) 健康危機管理基本指針に基づき、感染症健康危機対策班を設置

デング熱に関する電話相談対応

デング熱専用相談窓口電話番号 043-238-9969

対応時間 平日午前8:30～17:45（土・日、祝・休日を除く）

4 市内患者の発生状況

	届出日	年代性別	居住地	発症日	推定感染地
1	9/2（火）	70歳代男性	若葉区	8月24日（日）	代々木公園
2	9/8（月）	60歳代男性	稲毛区	8月31日（日）	居住地周辺

市民の皆さまへ

デング熱は、ヒトからヒトではなく、デングウイルスを保有した蚊を媒介して感染し、症状が出たとしても重症化することは少ないといわれていますので、市民の皆様は冷静な対応をお願いします。

また、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。蚊に刺されて発熱、発疹等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関を受診してください。

参 考

【デング熱について】

1 概要

- ・蚊が媒介するデングウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ヒトが感染しても、発症する頻度は10%～50%で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等の症状が現れます。
- ・予後は比較的良好ですが、まれに重症化することもあります。
- ・ヒト（患者）— 蚊 — ヒトという経路で蚊を媒介して感染します。ヒトからヒトへ直接感染することはありません。

2 症状

- ・突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛などが見られます。
- ・潜伏期間^{*}は2～15日とされていますが多くは3～7日で発症します。
- ・まれに重症化して、出血やショック症状がみられることがあります。

※蚊に刺されてから症状が出るまでの期間

3 治療法

- ・特異的な治療法はなく、対症療法を行うことになります。
- ・現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

4 予防法

- ・国内では、ヒトスジシマカ（主に日中に屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があるため、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

[具体例]

- ①屋外で作業する際は、長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きを避ける
- ②虫除け剤等を使用し、蚊を寄せ付けないようにする
- ③屋外だけでなく屋内でも蚊の駆除を心がける
- ④蚊の幼虫の発生源を作らないようにする

（蚊は、下水溝や廃タイヤの中等の人工的な水辺環境下でも産卵し、増殖する）